

2007

Annual Report



ヴァヌアツ共和国 ポートヴィラ



Japan Dental Mission
NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

1	代表理事挨拶.....	1
2	海外活動報告.....	2
2-1	7月ヴァヌアツ共和国.....	2
2-2	9月ヴァヌアツ共和国.....	5
2-3	11月フィリピン共和国.....	8
2-4	2月フィリピン共和国.....	11
3	海外活動参加者の声.....	14
4	国際交流.....	19
	～ラナケル小学校と西山本小学校との絵画による文化交流の取り組みについて～.....	19
5	国内活動.....	23
6	学術報告.....	24
7	ジャパン デンタル ミッションについて.....	25
8	協力者名簿.....	26
9	2008年度海外活動予定.....	27
10	役員.....	28



1 代表理事挨拶

近年において環境破壊による地球温暖化が進み、益々生活がしにくくなって参りました。JDMの活動拠点であるヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国においても、水位の上昇などの影響を受けているのが現状です。

しかしながら、イギリスのあるシンクタンクの調査でヴァヌアツは『世界で一番幸せな国』と発表されました、これは国民の平均寿命と生活の満足度、環境影響度から算出しています。つまり、「どれだけ自然環境に負担を与えず人間が幸せに生活しているか・・・」です。寿命は長く生活満足度が高くても、エネルギー消費型国はランキングが低くなります。日本は178カ国中95位、アメリカは何と150位です。

ヴァヌアツは決して経済的に豊かだとは言えませんが、家族や共同体を基盤にした自給自足の生活を送っていてとても心が豊かです。彼らの生活をみていると、人間として本当の幸せとは何だろう？と深く考えさせられます。

JDMはヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国での無償の歯科医療活動啓蒙はもとより、文化交流活動も行なっています。

2008年9月、ヴァヌアツ共和国教育省の要請により、Dr吉竹率いるチームが首都のポートヴィラで教育者を対象に口腔衛生指導の重要性を教育するというカリキュラムを二日間に渡って実施する運びとなりました。これもひとえに、25年間に渉るJDMの活動が相手国に受け入れられ、必要性、重要性を理解して頂いた結果であります。

また、文化交流の1つとして、ヴァヌアツ・タンナ島のラナケル小学校と八尾市立西山本小学校の間で絵画の交換活動を行なっています。昨年は『鯉のぼり』を通して交流を図りました。両校の生徒に4メートルの白地の鯉のぼりに、それぞれの思いを込めて描いて頂きました。素晴らしい作品となって現在それぞれの国で風をいっぱい含んで気持ちよく校庭で泳いでいます。

西山本小学校において、この鯉のぼりの交流は、お互いの文化の違いを知り、生活、習慣などを理解するきっかけとなりました。その後、生徒達は『幸せとは何か？』というテーマで授業を発展させています。

これからもあらゆる方面で幅広く活動を続けて行きますので、皆様方のご理解のほど、宜しく願い申し上げます。

代表理事 沢田 宗久



2 海外活動報告



ヴァヌアツ共和国
Republic of Vanuatu
タンナ島・マレクラ島

2-1 7月ヴァヌアツ共和国

場所 ヲァヌアツ共和国 タンナ島

期間 2007年7月14日~7月23日

参加メンバー

(上段左から) 萱中寿恵(D) 関根淳(D) 羽原佳子(D)
川田昌美(V) 井川一馬(V)

(下段左から) 大西富子(H) 寺島聡子(H) 山本喜代(V)
沢田宗久(D) 田代博一(V)

*歯科医師(D) 歯科衛生士(H) ボランティア(V)



保健省、教育省の皆さんと一緒に

今回の活動の目的でもあるヴァヌアツ政府とJDMの活動に対する政府全面バックアップの件は、昨年に比べさらに具体化されてきた。Dr 沢田と Vo 川田がポートヴィラに延滞し、政府教育省・保険省関係者と共に協議し、JDMの活動がスムーズに進行するように車の手配や拠点となるハウスの確保、JDMが政府教育機関に学校歯科保健事業として参入し、ヴァヌアツの教育専門職者養成の一部の教科に口腔衛生教育を担当するという計画も具体的に立案、決定した。

こういった要請をヴァヌアツ政府がJDMに提案されるということは政府が口腔衛生の重要性や、教育機関を通じて啓蒙することが早道であることを認識した結果であり、今まで24年間のJDMの活動に絶大なる信頼をおいて頂いていると自負するところである。

目の前の沢山の虫歯治療や入れ歯作成に追われる活動は決してムダにはならず、その積み重ねがこういった大きな事業や国の教育にまでかわりを持てるように発展したことはJDM活動の大きな節目となり、今後より一層の研鑽と努力を望まれているようで身が引き締まる思いである。

7月16日(月)

昼近くタンナ島に一足早く8名が到着、診療準備、食料の買出し…それぞれに活動開始。セラピストのティミー氏より明日よりウィピルメイ小学校に早速検診に行つて欲しいとの要請があり、治療班と検診班に分かれる準備をする。一年間置いていた医療機器を準備するには時間がかかったが、準備をしながら診療を続けた。

患者数:10名 充填:4本 抜歯:6本

スケーリング:2名 チェック:2名

今回入れ歯治療はできないと言う貼り紙をビシュラム語で貼るやいなや2名の患者さんが涙を流して「もう2年も待っている…」と言いながら帰って行かれる後姿は切なかった。

7月17日(火)

朝よりトメリさんが応援に来てくれた。ヴィラのデンタルセラピスト、現地語で説明、通訳をしてくださるのでとても力強い助手である。

朝よりウィピルメイ小学校に検診に行く

(トメリ・寺嶋・関根・大西) 生徒数: 58名

患者数: 20名 充填: 0 抜歯: 24本

スケーリング: 3名 チェック: 0

早朝より沢山の患者さんが列を作っていた。ラナケル病院のティミー氏は予診にまわり現地語で主訴を聞いてくれた、Drが2名でこれだけの患者数をこなすのは至難の業である。

午後より会議を終えてヴィラより到着したDr沢田とVo川田が診療に参加する。

7月18日(水)

今回のもう一つの目的でもある国際文化交流の架け橋となるべく八尾市立西山本小学校の5・6年生の描いた「鯉のぼり」とタンナ島ラナケル小学校の生徒の描いた「鯉のぼり」を交換するという行事である。Dr沢田とVo川田がラナケル小学校に検診と「鯉のぼり」のペインティングをお願いに行く。

ラナケル小学校・・・生徒数105名(沢田・川田)

ユーミット小学校・・・生徒数135名(関根・トメリ・大西)

ツフー小学校・・・生徒数168名(関根・トメリ・山本・大西)

患者数: 31名 充填: 12本 抜歯: 31本

スケーリング: 3名 チェック: 2名



JDMが来ていることを知った島民達が徒歩で4、5時間も歩いて来院される。抜歯本数が増えてくるが、やむを得ない処置である、学校検診にスタッフがとられるため、診療所ではVoの活躍が必至である、井川さんが大活躍してくれた。買い物や食料準備のかたわら、診療補助を担ってくれた。

7月19日(木)

患者数がピークになる。ラナケル小学校の検診でチェックの入った子ども達12名も治療対象となった、診療所の前は人だかりとなる、そういった時はVoの田代さんの出番である、みごとに明るく、待ちくたびれている患者さん達を英語でなごませてくれ振り分けてくれる。

Dr沢田は時々ラナケル小学校に出向き子ども達が鯉のぼりにペイントしている様子を撮影。絵の具というものにあまり慣れていない彼らではあるが、しっかりとしたタッチで取り組んでくれている様子が伺える。

ディップポイント小学校・・・生徒数150名(寺嶋・トメリ・井川・大西)

ローン小学校・・・生徒数53名(寺嶋・トメリ・井川・大西)

患者数: 43名 充填: 20本 抜歯: 22本

スケーリング: 4名 チェック: 14名

個人的なことであるが、昨年このディップポイント小学校には歯ブラシが足りなくて、生徒全員に配ることができずにとっても心苦しい思いのまま帰路に着いたため、今年はどうしても歯ブラシと鉛筆とサッカーボールはこの手で届けたかった。トラックを降りた時この学校の校長先生が「約束どおり来てくれてありがとう!!」と握手をしてくださった。言葉につまり、涙があふれそうになった。子ども達に鉛筆とボールを見せた時の嬉しそうな笑顔は忘れられない。

『これだから、活動はやめられない・・・』帰りのトラックは感動で胸がいっぱい!



7月20日(金)

早朝より患者さんは居るが、午後ともなると急に患者さんが来なくなる、島民は遠い所から徒歩で来るため、午後からは帰りが真っ暗になってしまう。それで朝はごった返す。

今回の活動では曇空が多く、午後から雨模様。早めに切り上げて午後からは在庫チェックをする。

ラナケル小学校での「鯉のぼり」の絵が完成し、スタッフがその交換式を見学に行った。

空になびく二つの鯉のぼりは壮大で優雅であった。小学生も完成を喜び「ユーミン」という国歌を合唱してくれた。子ども達の声は何てきれいなのだろうか…。

患者数:14名 充填:0 抜歯:14本

スケーリング:3人 チェック:1名 デンチャー修理:1名



在庫チェックを終え、本来ならば火山の見学に行く予定であったが、大雨となり中止になった。3日前よりJICAの小学校体育教師の浦てるひろ氏が私達のハウスに食事に来てくれた。

彼の話から、タンナ島のロカタイ小学校の30人31脚というTV出演の裏話は興味津々だった。

彼から島民の純朴なエピソードを聞かされ感動し、田代さんの料理の美味しさと相まって、毎日が満腹であった。

今回6校の小学校に出向き診療所は常に人手不足であったが、Dr羽原とDr萱中は疲れを訴えることもなく、ひたむきに、治療に専念して下さった姿はとても感動的であった。

ヴァヌアツ人の歯は尋常な硬さではない、ヘーベルが折れるくらい硬い歯牙なのである、残根だと侮ったらあまりの硬さにえらい目にあう。

来年からの予定として、保健省とのミーティングの結果、検診予定の小学校はツフー、ラナケル、ウィピルメイ、ディップポイントの4校にしぼられた。立地・環境・食生活などを考慮に入れ4校を決定した。継続的な検診をすることでデータを分析し、今後の学校歯科保健活動に活用したいという政府からの申し入れを考慮にいれ、今後10年間継続させる。

日	充填 (本)	抜歯 (本)	スケー リング	チェック	義歯 修理	受信 者数
16日	4	6	2	2	0	10
17日	0	24	3	0	0	20
18日	12	31	3	2	0	31
19日	20	22	4	14	0	43
20日	0	14	3	1	1	14
合計	36本	97本	15人	19人	1床	118人



今回検診した小学校は以上の6校である

学校によっては本来の全校生徒はこれの約2倍の生徒数である。私達が午後から出向く時間には子ども達が帰っているケースが多く、それほど通学に時間がかかっているということである、来年からは4校の小学校に絞る予定だが、全部朝のうちに検診できれば、この人数より上回る予定である。

子ども達はだいたい2~3時間かかって、徒歩で学校まで通い、中には5時間徒歩で毎日通学している生徒もいるということである。

感想

我々の活動は歯科医療奉仕活動のみならず、文化交流、青少年育成の3本柱で行っている。

ヴァヌアツでは、4、5時間もかけて来院する患者も居て、入れ歯の要望が多いが、今回は歯科技工士の参加がなく、入れ歯の作成が出来なくて心苦しく思えた。次回からは技工士の参加が望まれる。



文化交流として、去年から行っている八尾市立西山本小学校とラナケル小学校との絵画の交換をより発展させ、今回は「鯉のぼり」の交換を行った。

両校とも素晴らしい出来栄で、大空に風一杯浴びて泳ぐ姿はとても雄大で圧巻であった。(写真下)

「鯉のぼり」を通じて日本の文化を少しでも知ってもらえる機会が出来た。また、ボランティアとして参加した若者は活動を通じて自分の人生を見つめる機会が出来て、より大きく成長したと思える。

今後の活躍に期待したい。



2-2 9月ヴァヌアツ共和国

場所 ヲヌアツ共和国 マレクラ島

期間 2007年9月16日～9月23日

参加メンバー

(上段左から)黒田夕起子(V)横井峰子(H)上村美佳(D)

南富雄(T)近藤公英(D)森田朋美(H)

大数加裕信(V)

(下段左から)長谷川雅代(D)富井裕紀子(D)

高藤真理(H)

*歯科医師(D) 歯科衛生士(H) 歯科技工士(T)

ボランティア(V)



9月16日(日)

今年とは違い、成田経由にてヴァヌアツを目指した。伊丹午前の便で6名、昼の便で2名、関東から1名が成田にて集合。成田21時15分発シドニー経由にて翌日の16時30分にポートヴィラに到着した。

9月17日(月)





予定より 1 時間遅れの到着となり、いそいでメラネシアンホテルにチェックインし、翌日からの活動に備え、買出し班と、Ministry of Health でのセレモニー班に分かれて行動した。セレモニーでは、ヴァヌアツにおける JDM の活動、歯科衛生活動のポスター等の寄付に対する感謝、謝辞、また、ポスターの受け取りに時間がかかったこと、これから各小学校に配布する旨等の説明を受けた。JICA 國和さんに通訳をしていただき、簡単にお礼を述べた。ホテルに戻り、長旅の疲れをいやし、明日からの活動に備え早めの就寝となった。

9月18日(火)



メラネシアンホテルの大数加さんにも参加していただき、現地のトゥメルさんも合流して 11 名にて出発。予定通り、7時発のノルスープ行きに乗り 8 時ごろ到着した。ノルスープの空港にて現地 JICA の石田さんと合流。石田さんには今回大変お世話になった。病院では、保管していた器具類が見つからず、ひやひやさせられることがあったが、なんとか見つけて一安心となった。保管場所が変わっており、捨てられそうになっていた。次回から注意が必要だと思われる。



すぐに準備し、治療班、検診班にて活動を開始した。検診は、ノルスープ、タウトゥ小学校にて行った。

9月19日(水)



治療班、検診班にて終日活動を行った。治療では石田さんが、検診では大数加さんが通訳代わりに活躍していただき、現地に精通した強い味方となった。学校検診は、レンサリ、ネランプ小学校で行った。検診と簡単な治療のみであったため、要治療の人に対するケアが不十分であり、3、4日の帰国までの間にノルスープ病院まで来てくださいと伝えても、実際なかなか来られないのが現実のようで手を下せない状況に苦悩した。学校での歓迎、交流があり、子供たちの笑顔は素晴らしいものであったが、こちらからの歯科保険活動としての啓蒙活動(ブラッシング指導等)の提案ができなかったため、次回からの検討を期待したい。

引き続き、終日、治療班、検診班にて活動を行った。本日より、現地 JICA 保健士真崎さんも参加して下さった。学校検診は、ウリピブ、ワララノ小学校で行った。



9月20日(木) 治療では、3日目となりだいぶ落ち着いた。やはり義歯を希望する人が多く、技工士ひとりの南さんにかかる負担は大きく、夜遅くまでの残業を強いられても限度があり断らざるをえない状況が出てしまう。材料等の問題もあったが、これからの課題でもあるかもしれない。はるばる遠くから治療に来た人をお断りするのは大変心苦しい。この日は、最後の夜となったが、宿舍の水道が止まってしまう、今回ほぼ順調にやってきたが、やはり何かあるのがヴァヌアツだなという気がした。

9月21日(金)

最終日、午後だけの活動のため、少し早めに活動開始となった。学校検診はラカトロ小学校で行った。治療の方もポータブルも順調でチェア2台フル活用でスムーズに進めることができた。在庫等、備品の確認整理をして、帰路に着いた。予定通りノルスूप16時10分発、17時ポートヴィラに到着した。



9月22日(土)

15時30分ポートヴィラを出発し、シドニー経由、翌日、成田に到着。その後、伊丹へと戻ることができた。





2-3 11月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国 カオハガン島

期間 2007年11月20日～11月25日

参加メンバー

(上段左から)栗山雅行(V) 京谷繁美(V) 中村保雄(V)

吉村ひろみ(H) 大西富子(H)

河内光明(T) 沢田宗久(D)

(下段左から)崎山氏(V カオハガン島オーナー)

今本裕紀(D) 小林容子(H)

権藤裕美(V) 遠藤佐知子(H)

伊藤晴夫(V)

*歯科医師(D) 歯科技工士(T) 歯科衛生士(H)

ボランティア(V)



今回はあいにく天候が悪く、満点の星も、素晴らしい夕日も見られなかった。

毎日土砂降りの雨が降ったが、雨水を溜めて生活している島民にとっては恵みの雨であった。

11月20日(火)

午前7時30分に参加者全員関西空港に集合し、PR407便にてマニラ経由、PR849便でセブ空港に午後4時30分に到着。カオハガン島のスタッフ青木氏が出迎えに来て下さっており、バスにてハドソンの波止場に到着。そこからカオハガン島まで船で渡る。前回と同様、崎山氏とスタッフ、又宿泊されておられた、日本と台湾の方からの暖かい出迎えがあった。午後7時30分に夕食を取り、8時10分から明日からの診療のためのミーティングを行いその後就寝。

11月21日(水)



午前7時に起床し、8時に朝食を取り、終わり次第、診療の準備にとりかかる。午前中に義歯希望者の10名分の印象と咬合採得をした。午後から診療活動が始まり、Dr 澤田とDr 今本が患者のチェックアップを行う。午後5時に診療が終了し6時から夕食が始まり、その後ミーティングをして、フリータイムの後就寝。

11月21日の診療内容

患者数30名(カオハガン24名、パガンアン3名、カプールアン2名、パンダノン1名)

抜歯47本、充填13本、義歯リベース2名

印象8名(カオハガン6名、カプールアン1名、パガンアン1名)増歯(印象含む)2名、クラスプ修理1名、スクレーリング8名、シーラント20本



11月22日(木)

午前7時に起床し、8時に朝食を取り、終わり次第、診療の開始。Dr 澤田と Dr 今本は、午前、午後共に治療にあたる。学校検診は午前が DH 遠藤、大西、Vo 伊藤、吉村が担当、午後には DH 小林、DH 遠藤、Vo 伊藤が担当。学校検診内容は在校生が82名で、内、54名を検診 抜歯27本、充填14本、サホライド3例、グラスアイオノマーセメント充填3名



11月22日の診療内容

患者数36名(カオハガン19名、パガンアン4名、マンダウイ島1名、クミング島12名)

抜歯52本、充填11名、インチ1名

午後5時に診療が終了し6時から夕食が始まり、その後ミーティングをして、フリータイムの後就寝。

11月23日(金)

午前7時に起床し、8時に朝食。終わり次第、診療開始。午前中に Dr 澤田が DH 小林、DH 吉村と共に小学校にて、画用紙、エンピツ、歯ブラシの寄付を行う。

11月23日の診療内容

患者数38名(カオハガン26名、パンダノン10名、カプールアン1名、パガンアン1名)

抜歯45本(カオハガン26本、パンダノン13本、パガンアン5本、カプールアン1本)

シーラント(カオハガン3例)スケーリング3例

義歯セット10床、増歯4床

午後5時30分に診療が終了し、6時から夕食が始まり、その後ミーティングをして、フリータイムの後就寝。

11月24日(土)

早朝に Vo 伊藤が帰国。午前7時に起床し、8時に朝食、9時に後片付けと在庫整理し、残りの患者を診療、治療する。Vo 栗山と Vo 中村は運動会の準備、セットにとりかかる。12時に活動が終了し、昼食の後フリータイムで、3時30分から運動会が始まる。リレー、玉入れ、つな引き、お玉競争等で島民と共に楽しみに大いに喜んでいただけ、我々と心の交流が出来てきた事を実感した。

11月24日の診療内容

患者数9名(カオハガン8名、マリゴンドン1名)

抜歯24本(カオハガン23本、マリゴンドン1本)

運動会が終わり、6時から夕食が始まり、ミーティングをして、各自荷物の片付け、帰りの準備をして、フリータイムの後就寝。



11月25日(日)

午前7時に起床し、7時30分にカオハガンから船で移動する。セブ空港から PR854 便にてマニラ経由で PR408 午後7時20分に関西空港に到着、解散式の後、各自解散。

今回は歯科医と技工士の参加が少ないため、スムーズな診療ができる様、前もってミーティングを行い、ほぼ計画通り行えた。又、参加した方々、各自が責任を持って仕事を果たせたと思う。皆様、ご苦労さまでした。

(P.S)カオハガン島に到着した3日前に台風と豪雨があり、貯水タンクに100トンの雨水が貯まったとのことで水不足の島にとってはありがたいことです。



初参加の権藤さん(左から2番目)、小林さん(右端)



恒例となったVo伊藤さんの「たこ焼き」



困難な抜歯に力が入る Dr 沢田

DT 河内の奥さんから障害児に車椅子が贈られる

2-4 2月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2008年02月09日～02月13日

参加メンバー

歯科医師 平田 敏彦、沢田 宗久、上崎 秀美、
矢尾 まりこ、山内 聖恵、村田 澄子
歯科衛生士 寺島 聡子、倉橋 朋子、倉橋 寿会
大西 富子

ボランティア 筒井 文子、沖 まどか、藤原 直樹



2月9日(土曜日)

7時30分に関西空港に集合。マニラでは飛行機1時間遅れで出発するなどのトラブルがあったが、無事にセブに到着。カオハガン島へは、セブ島から船で1時間。着いた時には、真っ暗。その上、スコールが…。雨が止み、夕食の後ミーティング 明日の予定の確認。

2月10日(日曜日)

9時、診療を開始。島民だけでなく、近くの島々から続々と人が集まる。



教会には、受付・検診・治療のスペースが設けられ、今年は新しい治療用の椅子が作成されており、スムーズに治療が進んでいた。天候は曇りだったため、風通しもよく快適である。受付では、現地のエマさんが手伝ってくださり、検診では、チナさんが通訳として活躍してくださり、大変スムーズにすすむ。たくさんの患者さんに、はじめは戸惑う事もあったが、徐々にそれぞれが持ち場で仕事をこなしていく。14時から診療を再開し、17時に診療を終了。

1日目の診療の結果から、島民の予防医学に対する関心が窺え、虫歯のない状態を目指す JDM の長年の努力の成果を実感する。



2月11日(月曜日)

9時、診療を開始。同時に、小学校では Dr 矢尾、Dr 村田、DH 大西、Vo 筒井、Vo 藤原が学校検診を行う。一般の患者数は昨日の半分以下であったが、島民と小学校の生徒の治療のため、診療所はごった返す。

午前中、Dr 沢田は、セブ島の市長のもとに表敬訪問をする。



ドクターが昨日より少なかったこともあり、なかなか稼働率はあがらなかった。

14時、診療再開。着々と治療が進み、小学生と一般の患者の治療を無事終えた。診療後、Dr 平田・Dr 沢田・DH 大西と小学校の先生とのミーティングがあり、学校側はJDMの考えに理解協力の意思を示す。2日目の診療結果からは、大人と子ども的人数と抜歯の量と割合から、歯を大切にする事に対する意識の差を感じられる

2月12日(火曜日)

午前中はDr 沢田・Vo 筒井・Vo 藤原・Vo 沖が小学校へ、歯ブラシ・鉛筆・画用紙を寄付しに行く。生徒それぞれが嬉しそうにお礼を述べていた。診療所では、患者数が一人であったが、終了後片づけに取り掛かる。教会の椅子並べでは、島の子どもたちも手伝ってくれた。午後は、ブラッシング指導。クラスごとに順番に、練習・赤染め・ブラッシング、そして海へ口を濯ぎに行く。ブラッシングが終わった後の子どもたちの顔は大変すがすがしい。



15時より島民全体参加の運動会と学校検診で選出した9人の歯の健康優良児の表彰式。運動会の種目は、色別リレー・お玉リレー・二人三脚・玉入れ・綱引き。大変な悪天候にもかかわらず、びしょ濡れになりながらも子どもたちは色別に応援歌を作り、チーム一丸となっていた。大人も二人三脚や綱引きで、大変盛り上がった。JDM チームもリレーや二人三脚に参加し奮闘したが、結果は...。夜、夕食の前に子どもたちが現れ、歌と絵のプレゼントをもらい、またDr 沢田から歌のプレゼントのお返しで感動の別れを果たす。反省会では、それぞれのJDMでの活動・島の人々に対する熱い想いを感じられた。



運動会



2月13日(水曜日)

早朝、島の子どもたちや島民の方々、そして島に残るVo藤原さんに見送られ、島を出る。

朝食を取ったセブでは、物乞いとの遭遇に衝撃を受けた。19時、無事日本に到着する。

それぞれに感想を述べ、解散する。

<今回のリーダーから一言>

今回はセブ - カオハガンの航路で、雨と波しぶきに悩まされたこと以外は、通関などのトラブルもなく所定の活動をすべてこなし、全員無事に帰国しました。

初参加の若い3名の歯科医師は、私の予想以上に治療をこなしていただき、かなり楽をさせていただきました。

この経験を今後の医療に役立ててください。再度の参加を期待しております。

歯科衛生士の方々は、いつものことながら八面六臂の活躍で、準備や跡片付けでは邪魔をしないようにするだけでした。特にブラッシング指導や子供たちとの触れあいにはいつも感心しています。

ボランティアの方々は受付や診療の補助と、最後の運動会で大活躍してもらいました。色別の鉢巻やバトンを用意して、チーム別けしたので運行がかなり楽になりました。

歯科技工士の参加がなくて、義歯の作製ができず修理などしかできなかったのが残念でした。

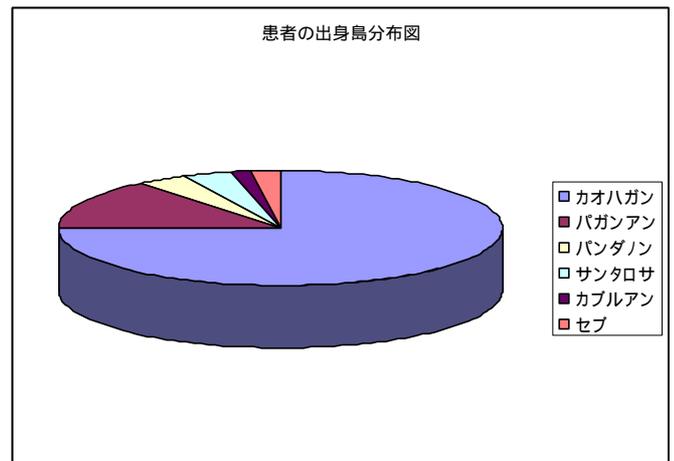
歯の健康な子供の表彰は、対象を変えて今後も続けられと思います。

運動会も島民にとっての楽しいイベントとして定着してきました。雨模様でしたが大人も子供も積極的に参加し、急遽大人のリレーや綱引きをすることになりました。

リーダーとして頼りない所をカバーしていただき、参加者全員に感謝しています。 平田敏彦

治療結果

	2/10	2/11	2/12	合計
抜歯(本)	60	98	1	159
充填(本)	82	211	0	293
デンチャー調整	4	3	0	7
スケーリング	12	14	0	26
その他	1	7	0	8
患者数合計(人)	50	89	1	140



出身島	人数
カオハガン	104人
パガンアン	20人
パンダノン	5人
サンタロサ	5人
カブルアン	2人
セブ	3人



3 海外活動参加者の声

矢尾 まり子(歯科医師)

カオハガン島でのボランティアを経て

今回、初めてJDMの活動に参加させていただきました。参加した動機は、以前からボランティアをしたいと思っていたのですが、なかなか自分に何ができるのかわからず、結局献血など小さなことで何となく満足していました。そんなときにこの話を聞いたのですが、半分南の島に行ってみたいという理由でかなり安易に返事をし、参加させていただくことになりました。

行くまでにどのような島なのかと調べてはみていたのですが、自分がそこで活動している想像が全く付かず、事前ミーティングまで旅行感覚でした。しかし、事前ミーティングで準備や活動内容を聞き、日本でもあたふたと診療をしている自分が行ってもいいのだろうかという不安に駆られました。でも、行かずに悩んでも仕方がないので、参加して自分に何ができるのかと試す良い機会を与えられたと思い、迷いは消えました。

フィリピンに到着し、船に乗りカオハガン島へ向かう途中、雨、島に着くとスコールのような雨。そんなハプニングに心の準備がなかったので気分は下がりましたが、南の島ということで雨はシャワーと思えばすぐに平気になりました。



到着二日目朝からいよいよ活動です。準備のとき何をしたらよいのかわからず、ただうろろするばかりで、その後の不安が募る一方でした。診療が始まり、まず先生のアシスタントをし、そして最初にした診療は抜歯でした。抜歯が多いとは聞いていたのですが、カリエスで充填でもいいようなものを抜くときは、かなり躊躇しました。しかし、そこでの治療は、根管治療の適応であっても連続治療ができないので、抜歯。納得せざるを得なく何本も抜歯しました。充填やデンチャー修理などの治療

もありましたが、何よりもそこで考えたことは、少ない器具の中、より効率よく診療できる器具を選び抜くということでした。なかなかピンポイントで選べず、何回も器具を置いてある場所を行ったり来たりして、効率が悪かったです。自分が今何をしたいのかを確定した上で、準備をし、治療を始めるといふ、基本的なことができていると気づきました。

そして、私の一番後悔、反省していることがあります。それは、小児の治療です。日本では小児の治療の際、咬合誘導やスペースの重要性を考えるのに、最初にあたった治療が大人の抜歯ばかりで、その流れで、

Eの残根を抜歯してしまいました。日本とは違うという確立しない概念で治療をしてしまったことを後悔し、反省しています。残根であってもスペースの確保になるし、痛みがなければ置いておくことが、その人にとって良いことだというのに。

長年、島の人々のことを考え治療に励んでいらしたドクター、衛生士、ボランティアの方々の努力を水の泡にしてしまった思いでいっぱいでした。こういった活動はただ一度行くだけでは何のボランティアにもなっていないと感じました。この土地に来て、食生活、生活習慣を知った上で、何をすべきなのか。日本とは違う環境の中で、何がベストな治療、指導なのか。これらについてしっかり考えた上で、また活動に参加させていただきたいと思います。そして、また島民の温かさ、子供たちの笑顔、自然に再会したいと思いません。

沖 まどか(ボランティア)

JDM 国外活動(2月カオハガン島)感想文

フィリピンへ出発する前、私は、知らない土地、知らない人との共同生活に、緊張と不安でいっぱいだった。あっという間に出発する日が近づき、気づいた頃には飛行機は飛び立ってしまっていた。

まず始めに驚いたのは、途中の乗換えで降り立ったマニラ空港でのこと。トイレに行くと日本人は皆、トイレの入り口に列を作っていた。ところが、現地の人々は、それぞれの扉の前に並んだ。日本人はその様子に困惑してどの扉に並べばいいのか譲り合いをするばかりでカルチャーショックを受けていた。やはりその地域によって特性が出ているのだと思った。

セブを出発するとき、真っ暗な海の中を歩くのは、とても不安で、予想より深いところに足がつくと、不安で足がどんどん深みにはまっていった。しかし、真っ暗な海は潮風が気持ちよく、何も見えてはいなかったけれど、とてもワクワクして気分は高揚していた。

電気がないということにはじめはなかなか慣れることができなかった。島に到着した直後は、周りの様子が全然わからず、とても怖かった。普段は街灯がついているため、どんなに夜遅くても、とても明るい。このギャップがさらに不安感を高めさせた。

その日の食事の後は、ひたすら次の日の活動に対する期待と緊張でいっぱいだった。

次の日、診療が始まり現地の方と直接触れ合えたことが、とても緊張したけれど楽しかった。また、普段見ることのできない生の歯科治療の現場を見ることができて、とても新鮮だった。

また、忙しかった午前中の診療が終わり、海を見るとエメラルドグリーンの海が広がっていて、とても感動した。沖縄にも行ったことのない私は、カオハガン島の自然の豊かさに感動した。その日の夜、島の子供たちが名前を覚えてくれて、とても嬉しそうに呼んでくれた。私はなかなか名前を覚えてあげられないことがもどかしく、情けなかったが、ただ名前を呼んでくれるということが、恥ずかしくもあり、それ以上にとっても嬉しかった。

翌日には、学校検診もあり、診療所は大忙しだった。次から次へとやってくる大人も子供も歯を抜いたり充填したり。私は歯の麻酔がとても苦手なのに、皆、子供たちは泣きわめくことなくどんどん治療を受けていく。その様子に、私はとても感心した。私は、その様子に勇気付けられ、帰国後、“親知らず”を抜いたのだ…。

また、一日目も二日目も通して感じたのは、治療をしている人の横で、小さな子供が、チョコレート菓子やキャンディーをくわえて、口の周りをベタベタにしている。それを注意する人も誰もいない。そのような環境にビックリした。

学校に歯ブラシの寄付に行ったときには、皆それぞれが、きちんと澤田先生にお礼の言葉を言うていくのがかわいらしく、寄付した後の写真撮影では「イエ イ」ととても嬉しそうにしていた。

午後からのブラッシング指導では、海で口をゆすいだ後、子供たちが白い歯自慢げに見せて写真に写っている姿がとても印象的だった。

運動会では、準備をしようと砂浜に向かうと、雨が少し降っていたにもかかわらず、子供たちが砂浜に集まっており、子供たちと追いかっこをして遊んだ。また砂浜に旗をさしてトラックを作るときには、子供達が旗を挿すのを進んで手伝ってくれた。トラックが出来上がると、子供たちはトラックをただただ走り回っていた。日本の子供たちはゲームをしている姿を見ることが多いけれど、島の子供たちは、追いかっこをしたりするだけで、笑顔が絶えない。とても純粋だ。運動会が始まる頃には土砂降りになっていたが、そんなことも気にせず大人も子供もとても盛り上がった。

夜、晩御飯を食べる前に、子供たちから思いがけないプレゼントがあった。思い思いに書いてくれた絵や歌のプレゼントに大変感動した。ほんの少し過ぎただけの子供たちが、私のことを友達とってくれたことがとても嬉しかった。また、歯を大切にしてほしいというお話をしているときも、皆真剣に聞き入っていたり、泣いている子がいたり、とても温かいものを感じた。翌日の早朝は、まだ夜が明けていなかったのに見送りに来てくれた子供たちの温かさをまた実感した。

ご飯の後の反省会では、JDM のメンバーの島の人に対する熱い想いをひしひしと感じた。また、この診療の結果や島の人々の反応から、JDM の活動の意味をととても感じた。

朝、セブの朝市でご飯を食べたり、移動をしたりしているとき、物乞いをしている人の姿を見た。この活動の中で、一番衝撃を受けた出来事だった。

今回この活動に参加できたことで、カオハガン島のきれいな海や夜光虫や寝ている時にコテージの中で聞こえた波の音など自然の豊かさにも触れることができたし、島の人々の生活に密着することができたし、島の人々の温かさや純粋さを感じることもできた。これは観光では決して見ることはできなかった。私の人生のなかで、かけがえのない経験ができた。心の底から参加してよかったと思う。



僕は JICA 職員のはとこの影響で国際協力に以前から興味がありました。学生の頃ナイジェリアで活動しているはとこを訪問し、色々な表現もおもいますが、実際の「developing country」というのを自分の目で見てきました。そして歯科医師を目指している僕にとって自分の国際協力への近道は、つまり事無く歯科医師になることだと思いました。

歯科大で5年生の頃、大学の先生の紹介で澤田先生に出会いました。大阪で色々と JDM の事を丁寧に説明していただき、参加してみようと思いました。その時は「縁があったらまた会おう」と言われましたが、国家試験に合格して歯科医師になったら JDM に参加する、というのが国家試験のモチベーションにもなりました。

今年無事国家試験を合格し、晴れて澤田先生とコンタクトを取り JDM に参加することが出来ました。歯科医師としてはまだまだスキルはありませんが、実際の治療や学校検診に同行させていただき、歯科医師として非常に充実感を感じました。治療によって純粋に喜んでもらえるというだけで、自分がどうして歯科医師になったか少し分かったような気がします。

活動中は人間関係も勉強になりました。JDM には色々なバックグラウンドのスタッフがいました。僕はまだ24歳ですが、それなりに色々な人と関わりあってきたつもりでいました。しかし、それはある程度限られた世界の中だけであって、自分の常識と少し違う事は何度もありました。人間としても少し成長できたと思います。

バヌアツに向かう飛行機の中で、澤田先生や、ほかの活動経験豊かなスタッフの方に「関根先生はバヌアツ行ったら人々の純粋な心に触れて帰りたくなる」とか、「最後は泣いて大地に感謝するんじゃないか」とか言われて、僕は少し大げさじゃないか? と思いましたが、活動を終えてタンナ島を頼りないプロペラ機で離陸する時、僕の胸は墜落するかもしれないドキドキより、何か熱いもので満たされていた気がしま



す。

感想文

私は、JDMのボランティア活動に参加して沢山のことを学びました。それは生きていく中で一番の敵は自分自身であり、またそれに勝たなければいけないということです。

タンナ島での活動で、メンバーやヴァヌアツの子ども達にそれを教えてもらいました。子ども達はとても純粋で礼儀もあり、声をかければ笑顔で返事をしてくれて、ここでも「素直さ」を教わったような気がします。活動においては日本では絶対に経験できない診療所と外回りでの出来事は自分にとって、とても良い経験になりました。メンバーにも同じようなことを学び、それプラス、もっと深い、言葉では表現できない沢山のことを学びました。それは私の「弱い気持ち」でした。約20年生きてきた中で、何かあるとすぐ自分のハンデーを盾に逃げてしまい、何の進展もないままここまで生きてきたような気がします。しかし、ここでの活動と、先生方の話を聞いていると、自分を変えたいと思うようになりました。今すぐに変える事は難しいと思いますが、決して焦らず、ゆっくり自分と向き合っていきたいと思います。

今回このJDMの活動に参加し、みなさんと出会えたこと、一緒に活動したこと、いろいろな話を聞かせて頂いたことは、これからの人生において、とても素晴らしい宝物となりました。次に参加するときは、今よりも人間的にレベルアップして皆さんに再会したいと思います。

人生の宝物になった10日間を一緒に過ごしたメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。



4 国際交流

「ヴァヌアツ共和国との文化交流から学ぶ」 ～ ラナケル小学校と西山本小学校との絵画による文化交流の取り組みについて～

はじめに

私が勤務する八尾市立西山本小学校は信貴山の山なみが美しい静かな住宅街にあり、全学年2クラスの小規模校である。学校全体が落ち着き、地域と共にいろいろな取り組みに意欲的である。3年生以上の学年は総合的な学習の時間(自ら学び自ら考える力や学び方、物の考え方などを身につけさせ、よりよく問題を解決する資質や能力などを育むことをねらい、創意工夫を生かしながら具体的な学習活動をさせる。)が設けられており、私の関わる高学年においては「国際理解」をテーマにこの取り組みを続けてきた。

澤田先生との出会い

私が通う澤田歯科の院長である澤田先生と学校現場や子ども達の様子を話す中で、ヴァヌアツ共和国やフィリピンの子どものためにボランティア活動をしていることを知った。診療後のほんの数分の会話を重ねていく中で共感する事が多く、遠い国「ヴァヌアツ」へ向けて大きな夢が広がっていく予感がした。歯科医療活動や歯磨き指導と共に、多様な悩みを抱えている身近な青少年達をボランティア活動に参加させるという取組みを長年にわたって続けておられ、日本の青少年の健全な育成を目指しておられるという。国を離れての現地での貴重な体験やボランティアに参加した子ども達の様子などの話をもっと詳しく聞きたいと思い、6月に本校職員のための人権教育研修会に講師として来ていただいた。その活動内容に共感し、本校の子ども達にも「国際理解」の分野で何かできることはないか・・・というのがこの文化交流の始まりである。

取組み

平成18年度5月からいよいよ具体的に交流がスタートした。

当時私は5年生の担任であったので6年生の担任と話し合いながら活動を進めた。この取組みを子ども達



に話すと「それ、どこの国?」「どんな所?」などの質問攻めにあい、まずは「言葉での交流は難しい。」ということを彼らに伝えた。では、どんなことで交流するのか・・・?学級で話し合いをし「絵画ならいける!」ということになった。

この時期クラスにアメリカから短期留学の男の子が在籍しており、彼の意見がたいへん参考になった。早速6年生は日本文化のひとつである「墨絵」5年生は「折紙」を仕上げ、澤田先生に託した。

7月、ヴァヌアツから帰国された澤田先生から大きくて分厚い茶封筒を頂いた。「絵や折紙をありがとう。」という簡単な全体へのお手紙だろう・・・と

っていた子ども達はその封筒の中身を知って思わず歓声をあげた。そこには墨絵を描いた6年生に対しヴァヌアツの子ども一人ひとりが心をこめて絵とメッセージをしたためてくれていた。私たち職員もヴァヌアツ

の子ども達の熱い思いに感激し、ここから本格的な交流が始まった。

11月の日曜参観にはヴァヌアツの写真、絵、メッセージを掲示し保護者へもこの取組みを発信した。

12月、澤田先生から「鯉のぼり交流」の提案をいただき、5,6年担任で準備を進めた。一度に全員が描けないので授業の合間をぬって各自がウロコ一枚を受け持ち仕上げていった。4メートルの鯉のぼりのウロコが全て埋まったのは6年生が卒業を控えた2月末だった。

平成19年4月、私が担任をしていた5年生が新6年生となり、ヴァヌアツとの交流を引き継いだ。昨年度描いた鯉のぼりの仕上げをし、6月に澤田先生に託した。子ども達の思いが詰まった鯉のぼりをヴァヌアツへ届けていただくために。



9月、澤田先生に授業をしていただき、ヴァヌアツ共和国のことや、現地でのボランティア活動の様子を知った。また、現地の子供達が初めて使った絵具で描いた鯉のぼりを先生からいただき、運動場のポールに掲げて交流の手ごたえを感じた。明るく美しい色彩でのびのびと描かれたヴァヌアツの鯉のぼりは西山本の校庭で風を受けて元気に泳ぎだした。運動会当日バックネットの高い位置に鯉のぼりを掲げ、校長が全児童と保護者に紹介したことでこの取組みを知る保護者が少しずつ増えていった。

11月の日曜参観(人権学習)で授業「ヴァヌアツのことをもっと知ろう」を行った。事前にヴァヌアツについて調べ学習を進めていく中、パソコンや本などからは普段の現地の様子がなかなかつかめず、澤田先生には度々FAXや電話で質問し詳しい情報を提供していただいた。「世界で一番幸せな国ヴァヌアツ」とメディアで紹介されたことを課題の一つに取り上げ「幸せとは何か」を追求していく授業が始まった。参観に来ていた保護者も一緒に「幸せ」について考えた。

平成20年1月、澤田先生に第2回目の授業をしていただいた。テーマは「本当の幸せとは何だろうか?」である。NHKラジオ深夜便で放送された澤田先生の生き方を聴き、先生とのうちとけた交流の中で子ども達は「幸せ」とは便利で物質的に豊かな環境の中にだけ存在するものではないと気付いていった。美しい自然、人々の笑顔、感謝の気持ち、支え合う仲間...。自分たちを取り巻く環境とはあまりに異なるヴァヌアツの人々がグッと身近な存在になったようである。授業の後の給食のカレーライスを澤田先生と共に楽しくいただき、普段着の会話に花が咲いた。また、子ども達は今まで自分たちに関わっていただいたお礼にと、先生に歌のプレゼントを用意していた。かなり前からヴァヌアツの国歌をリコーダーで練習をしていたのである。音楽室に先生を招き、ヴァヌアツ国家「ユーミン」を演奏し、音楽会で歌った「with you smile」を聴いていただいた。このヴァヌアツ国歌を現地での伴奏に使っていただけたらと思いCDをお渡した。



子ども達の卒業が迫ってきた2月。最後の文化交流として「カルタ」を作ることにした。大きめの厚紙にそれぞれ絵と単語をかく。単語は英語と日本語(ローマ字)で表し、遊びながら少しでも日本語に興味を持ってもらいたいと思う。子ども達は和英辞書を片手に、どういう内容にすればヴァヌアツに興味を持ってもらえるか迷いながら仕上げていった。このカルタも澤田先生にお願いしてヴァヌアツ行きの荷物の一つに加えていただくことになった。

6年 児童感想文：平成20年1月23日澤田先生の授業を受けてここに3人の生徒の感想文を紹介します。

男子生徒A

今日、澤田先生のヴァヌアツの話聞いて、チームワークというものを改めて見直しました。

テープに録音されているのを聞いて、ヴァヌアツの子ども達はたくさんの物を再利用していることがわかりました。ヴァヌアツの子はサッカーボールをもらった時、自分だったらすぐに使うけど、大事に持っていてなかなか使わず、本当にものを大切にするんだなと思いました。

最近、地球温暖化のせいで海面が上昇し、海岸に住んでいる人に被害が及び、疎開をしている人もいて、何も悪いことをしていないのに、かわいそうだなあと思いました。さらにサイクロンなどの災害により本当に苦しんでいると思います。しかし、そういう苦しいことをみんなで乗り越えるから、世界で一番幸せな国なんだと、ぼくは思います。ヴァヌアツの人たちは、澤田先生が帰る時、いつまでも手を振って最後まで見守っていてすごく心が清らかなんだなあと、ぼくもそんな人間になりたいと思いました。今日、澤田先生の話聞いて、先生は今までにいろいろな災難にあったけど、全部乗り越えてきて立派だと思いました。また、「人は生かされている」という言葉を聞いて、ぼくはこれからももっともっと命を大事にして、みんなと助け合って生きていきたいと改めて思いました。澤田先生と出会えてよかったと思いました。

女子生徒B

澤田先生に会ってお話を聞くのは二回目、今日はラジオで澤田先生のことやヴァヌアツのことがもっとよく知れたと思います。今、地球温暖化で、「しあわせの島ヴァヌアツ」の自然が失われていることも、いろいろと聞きました。ヴァヌアツは、物も少なく不自由な生活なのになぜ一番幸せな国?と聞きました。でも澤田先生のお話を聞いていると、なるほどと思いました。ヴァヌアツは物が少ない、でも物が少ないからこそ皆で助け合って生きているのだから幸せなのではないかと思いました。日本やアメリカなどは文明が発達すぎて逆に家族と触れ合うことがないなどであまり幸せではないのかもしれないと思いました。

学校に行けず不登校でいる子をヴァヌアツと一緒に連れて行って、そこでヴァヌアツの良さやヴァヌアツにしかないものを見て感じてもらったのだと澤田先生が言っていました。ヴァヌアツという国を知らない人はたくさんいると思います。でも澤田先生のお話を聞いていると、もっともっとたくさんの人に「ヴァヌアツ共和国」のことを知ってもらいたいと思いました。澤田先生は「お前はまだまだやることあるから生きろ。」

と言われ、今の仕事をしているんだと思います。ヴァヌアツの交流は最後だけ、今の5年生にもいろいろと教えてあげてほしいです。

女子生徒C

今日4時間目に澤田先生がヴァヌアツの話をしに来てくれました。はじめはラジオを聞かせてもらいました。そして、「世界で一番幸せな国はヴァヌアツ共和国。日本は95位」と聞いて改めて、幸せとは何かを考えました。澤田先生も言っていたけど、確かに日本は何でも手に入るし、お金があればokだ。けれどそれは幸せとは違います。文明ばかりに頼っているのが今の私たちです。ヴァヌアツは仲間で力を合わせて何事もし、物のありがたみが分かるからこそ世界で一番幸せな国だと私は思います。次に先生の話で学校のことを聞いて驚いたことがあります。それは学校から遠く離れた自宅から勉強したいという気持ちで何時間もかけて通っているということです。また機会があれば澤田先生にいろいろ話を聞き、一度ヴァヌアツへ行ってみたいと思いました。

終りに

2年間の取り組みを終えた今、子ども達の心の中には、まだ見ぬ遠い国「ヴァヌアツ」への熱い思いが育ちつつある。友達同士、当たり前のようにヴァヌアツの事を口にするし、国歌も口ずさみながら掃除をしている。「どう生きるか？本当の幸せとは？」を考える機会に恵まれ自己を見つめることができたヴァヌアツとの文化交流。

「人権教育」と大上段に構えるのではなく、心の持ち方、相手を思いやる気持ち、周りへの感謝……。今、自分が生かされているのだということを12歳なりに考えさせたかった担任の思いと澤田先生のボランティア活動の理念とが縁あって「ヴァヌアツ共和国との文化交流」という形で実現したことに心より感謝したいと思う。



3月18日、卒業式。お世話になった澤田先生も式に参列され、子ども達の巣立ちを見守って下さった。「別れの言葉」の中にもヴァヌアツ共和国との交流の思い出を盛り込んだ。自分たちの身近な問題として「本当の幸せ」の意味を考え、悩み、自分なりに答えを見つけて晴れやかに卒業していった。

今、私は新たに5年生を担当することになりこの取組みを子ども達に引き継がせたいと思っている。

八尾市立西山本小学校 教諭 津崎恵子

5 国内活動

- 2007年 8月27日(月) 大阪船場ロータリークラブにて卓話
内容:「ヴァヌアツの歯科医療奉仕活動の報告」
- 2007年 9月 4日(火) 八尾市立西山本小学校にて講演
内容:「JDMのヴァヌアツでの活動」
講演後、ヴァヌアツの子供たちが描いた鯉のぼりを贈呈し運動場に掲げる。
- 2007年 9月 25日(火) 経営と心の会の『TALK TALK』誌において「生かされし我が人生に感謝・ボランティアの目的は自立心」と題し掲載
- 2007年 10月 歯科保健医療国際協力協議会『JDMの活動報告』で掲載
- 2007年 10月 5日(金) 八尾東ロータリークラブにて卓話
内容:「南太平洋における歯科医療奉仕活動と青少年育成について」
- 2007年 10月19日(金) NHK第1放送「ナイトエッセー」において「万事世の為、人の為」という
題で放送
- 2007年 11月14日(水) 八尾市立西山本小学校にて講演
人権学習の授業で「ヴァヌアツの事をもっと知ろう」というテーマで行い、
メディアで「世界で1番幸せな国ヴァヌアツ」と紹介されたことを課題の
一つに取り上げ「幸せとは何か」を追求していく授業を行う
- 2007年 11月 国際ロータリー第2660地区大会『奉仕の心・奉仕の感動を語り合う
写真展』において、活動のパネル展示を行う
- 2007年 12月 8日(土) 国際ロータリー第2660地区大会
「奉仕の心、奉仕の感動を語り合う写真展」において活動のパネル展示を行う
- 2008年 1月23日(水) 八尾市立西山本小学校にて講演
「本当の幸せとは何だろう?」というテーマで授業を行う
- 2008年 2月27日(水) 奈良県 王寺・河合第2小学校にて講演
内容:「南太平洋における歯科医療奉仕活動と青少年育成について」
- 2008年 2月27日(水) 奈良県 王寺・河合第2小学校にて講演
- 2008年 4月 岡山県空中美術館主催「第3回こいのぼりイラストコンテスト」があり、
八尾市立西山本小学校と奈良県河合第二小学校の6年生の作品を出展

6 学術報告

報告:吉竹 弘行

昨年度の活動報告書に載せさせて頂いた、「これまでのカルテを分析する」というテーマの、現在のところ進捗状況が、芳しくありません。学術を担当して下さっている方々の努力にも関わらず、いろいろと思いがけないトラブル等もあり、もう少し時間がかかりそうです。



今後多々工夫をしながら、目標を早く達成できるようにしたいと思っています。今後の活動予定としては、もう1つ大きな目標を考えています。それは「ヴァヌアツに於ける Dental I.Q. の向上」というものです。抽象的で少し大きな目標ではありますが、こちらの方も少しずつ前進させていきたいと考えています。

その手始めとして、本年の9月16日と17日に首都ポートヴィラで、現地の学校の先生方や保健婦さん達を対象に、講演会と、出来れば簡単な実習コースを開催したいと企画を進めています。参加して頂ける現地の方々の人数や、あるいはどの程度の歯科疾患に関する知識をお持ちか等々、不明な事も多々ありますが、理事の栗山さんの力を借りて、これからヴィラの関係者と打ち合わせを重ね、是非とも成功させたいと思います。

今のところ、会場は未定ですが、講演の通訳には現地の JAICA におられる国和さんをお願いするつもりです。まだ具体的なタイムスケジュールは考えていませんが、日本から、パソコン、プロジェクター、ポインター等を持って行くつもりですが、スクリーンやマイクは現地で借りようと考えています。ヴィラにあるメラネシアンホテルにおられる日本人の大数加さんが先月に一時帰国されたので、協力をお願いしておきました。

講演、実習内容としては、下記の如く行う予定です

- 1) 歯牙 歯周組織の解剖
- 2) 口腔内の細菌
- 3) 感染症としての齲蝕と歯周病
- 4) その治療方法
- 5) その予防方法（講義と顎模型を使った実習）

9月のこの講演会がうまくいけば、来年以降も継続して行こうとは思っています。

皆様方にいろいろな形でご協力をお願いする事もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

7 ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿革
1982	現在、当会代表理事の沢田 宗久が社団法人南太平洋協会の会員で、そこでヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏とともに“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらい、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大から、「南太平洋に歯科医療を育てる会」をNGOとして沢田 宗久が設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島在住の崎山克彦氏からの依頼を受け、フィリピン共和国カオハガン島での歯科医療活動を開始
・ ・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年3回の活動を継続している。若い層の人材も増え、2001年に青年会が発足した。
2003	NPO法人ジャパン デンタル ミッション誕生
2004	ヴァヌアツ共和国厚生省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国共に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い文化の交流を図っています。

3. 生活向上活動(派遣国の生活のQOLがより向上するための活動)

・文房具、スポーツ用品の寄贈

絵画の交流と同時に文房具やスポーツ用品の寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

8 協力者名簿

支援協力

- ・ NPOセンター
- ・ (株)TKX
- ・ 青木林業
- ・ (株)アドダイセン
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ (株)オクウチサービス
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ (株)北野商店
- ・ 牛乳石鹼共進社株式会社
- ・ (株)清原
- ・ (株)工藤産業
- ・ 沢井製薬株式会社
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 甚田会計事務所
- ・ 整水工業株式会社
- ・ 太陽総合会計事務所
- ・ (株)太洋旅行
- ・ つるや株式会社
- ・ (株)不二印刷
- ・ 南総工業(株)
- ・ (株)ニッタハウス
- ・ (株)樋口材木店
- ・ 福德合成工業
- ・ 京呉服 宮下
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ (株)八千代オート
- ・ (株)陽春園

物品提供

- ・ Greempath Corporation
- ・ (株)UHA味覚糖
- ・ アベ・ラベリング
- ・ (株)ロジティックス
- ・ (株)サクラクレパス
- ・ (株)山貴産業
- ・ 株式会社根来
- ・ サント電気株式会社
- ・ セイコーエプソン株式会社
- ・ 曽和繊維工業(株)
- ・ 大日本除虫菊株式会社
- ・ (株)タナベスポーツ
- ・ 有限会社トリビ
- ・ (株)トキワ
- ・ (株)ナカガワ
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (株)林
- ・ フーセンウサギ株式会社
- ・ 太平工業株式会社

歯科関連

- ・ DENTRADE
- ・ (株)尾崎歯材
- ・ 川西市歯科医医師会
- ・ グラスコ・ミスクリン株式会社
- ・ (有)サカガミデンタルサプライ
- ・ 澤田歯科
- ・ サンスター株式会社
- ・ ジャックス株式会社
- ・ (株)スモカ歯磨
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ 嶽北歯科
- ・ 中央区南歯科医師会
- ・ 西澤歯科医院
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 白水貿易株式会社
- ・ 浜田デンタルサプライ
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ (株)モリタ
- ・ (株)矢田化学
- ・ 山本歯科商店
- ・ 吉竹歯科医院

IT 関連

- ・ (有)システムつう
- ・ ヴェリテック・アイコニックス・ベンチャース(株)
- ・ ユー・エフ・オー株式会社

個人支援協力

- ・ 池内 正彦
- ・ 内田 千代子
- ・ 裏南 好太郎
- ・ 大嶋 捷正
- ・ 太田 暁子
- ・ 岡本 悦子
- ・ 沖 真一郎
- ・ 奥内 由見子
- ・ 斧原 秀夫
- ・ 欠野 アズ沙
- ・ 柏木 治行
- ・ 片岡 清夫
- ・ 神谷 保
- ・ 川田 修弘
- ・ 川田 昌美
- ・ 北村 容子
- ・ 工藤 武雄
- ・ 河野 比子
- ・ 小島 常男
- ・ 阪上 勝利
- ・ 阪本 妙子
- ・ 崎山 克彦
- ・ 佐野 清
- ・ 沢井 武清
- ・ 清水 美代子
- ・ 白井 淳二
- ・ 鈴木 しげ子
- ・ 世良 綾子
- ・ 園山 春二
- ・ 竹林 和彦
- ・ 武安 俊子
- ・ 田坂 修
- ・ 田中 愛子
- ・ 中野 栄津子
- ・ 中原 道朗
- ・ 西 京子
- ・ 西澤 永子
- ・ 西原 則子
- ・ 西原 正起
- ・ 西村 文延
- ・ 新田 昌男
- ・ 橋本 雄司
- ・ 長谷川誠太郎
- ・ 林 怡久雄
- ・ 濱口 綾子
- ・ 東芝 茂樹
- ・ 樋口 淳一
- ・ 平田 実
- ・ 福本 幸一
- ・ 松谷 廣信
- ・ 八津川信子
- ・ 山田 一郎
- ・ 山田 登紀子
- ・ 吉井 照子
- ・ 吉本 晴彦

9 2008年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~jdm> をご覧下さい。

日 程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日 程	締切日
7月沢田チーム	2008年 7月12日～ 7月21日	2008年 5月31日
9月吉竹チーム	2008年 9月14日～ 9月21日	2008年 7月15日

フィリピン共和国		
チーム名	日 程	締切日
11月平田チーム	2008年11月20日～11月24日	2008年 9月10日
2月沢田チーム	2009年 2月10日～ 2月15日	2008年12月22日

募集人員

歯科医師	約3名前後
歯科技工士	約3名前後
歯科衛生士	約3名前後
ボランティア	約3名前後

参加費用

科 目	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国
	金 額	金 額
航空運賃 *1	約26万円前後	約8万円前後
滞 在 費	2万円前後	なし
海外傷害旅行保険代	約1万円	約1万円
Tシャツ代 *2	3千円	3千円
合 計	約29万円前後	約9万円前後

*1:航空運賃は時期により変動します

*2:持っていない方のみ

10 役員



代表理事
沢田 宗久



副代表理事
平田 敏彦



理事
吉竹 弘行



理事
河内 光明



理事
栗山 雅行



理事
松浦 茂



理事
田中 良明



理事
小西 あゆみ



理事
永井 利宗



理事
内藤 徹



理事
森田朋美



皆様へお願い

歯科技工士さんの数が足りません

現在登録されている会員様の中で技工士の方の数が少なく、ボランティアを行う海外現地でのデンチャー製作の数が需要に比べて供給が遥かに少ない状況です。せつかく治療のために遠路遙々足を運んで来られた患者さんに対してデンチャーのサービスが提供できないということは、とても悲しいことです。JDMの訪問を心待ちにしている患者さんたちに悲しい思いをさせないために、より多くの技工士さんに入会していただけるよう皆様方に是非ご協力をお願いしたいと思います。お知り合いの技工士さんに現状を話され、入会を勧めていただくようお願い申し上げます。

南太平洋 バタフライアイランド



2008年 6月 23日 発行

発行者 NPO法人ジャパン デンタル ミッション

〒542 - 0085

大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 澤田歯科内

TEL:06 - 6252 - 0118 FAX:06 - 6252 - 5351

URL:<http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/index.html>

E-mail:jdm@themis.ocn.ne.jp

* 本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。